平成 23 年度中間決算報告書

80. Love
TOKYO FM

株式会社エフエム東京

平成 23 年 11 月 30 日

報道各位

株式会社エフエム東京

平成 23 年度中間業績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、平成 23 年３月 11 日に発生した東日本大震災による電力供給の制約やサプライチェーンの寸断が全国的な生産活動の低下をもたらし、米欧に端を発する海外景気の減速や長引く円高の影響も加わり、景況の先行き不透明感がさらに高まる状況となりました。個人消費についても、雇用や所得環境の改善が見られない中、震災および福島第一原子力発電所の事故が消費者マインドに影を落とし、低調なまま推移しました。これらの影響は広告市場にも及び、前連結会計年度は回復傾向が見られたテレビ・ラジオを含め、所謂マスコミ４媒体にとっては全体として厳しい市場環境となりました。

このような状況の中、当中間連結会計期間の当社グループの売上高は 87 億９千９百万円（前年同期比 0.03%増）、営業利益は４億７千９百万円（前年同期比 106.5%増）、経常利益は４億４千２百万円（前年同期比 98.2%増）となりましたが、中間純利益は税効果会計の影響により１億９千９百万円（前年同期比 25.8%減）となりました。

当社単体の業績につきましては、ラジオの社会的使命が再評価される中、高品質な番組制作や各事業部門における営業努力、コスト・コントロール等に取り組んだ結果、売上高は 66 億７千８百万円（前年同期比 7.6%増）、営業利益は４億７千４百万円（前年同期比 221.8%増）、経常利益は５億２千３百万円（前年同期比 215.7%増）、中間純利益は２億８千９百万円（前年同期比 25.1%増）となりました。

〈放送事業活動〉

当社では３月 11 日の東日本大震災の直後から震災報道特別編成（全国ネット）に切り替え、メディアとしての公共的な役割を果たすべく災害情報・ライフライン情報を伝え続けるとともに、当社の編成理念である「ヒューマンコンシャス～生命（いのち）を愛し、つながる心」に則り、被災された方々の心情に思いを寄せた特番編成を実施しました。１週間にわたる報道特番では、未曾有の大災害に鑑み、CM・提供クレジット、AC（公益社団法人 AC ジャパン）素材までもお断りせざるを得ないという異例の判断をし、関係各位のご理解をいただきました。

被災地３局、FM 岩手、FM 仙台、福島 FM からの現場生中継は１週間で 100 回を越えました。当社では、３局に向けて水、食料、非常発電燃料などを搬送するとともに、FM 岩手からの要請に応えて激甚被災地である釜石市にスタッフを派遣、サテライトスタジオを急遽建設しました。さらに、釜石市の臨時災害 FM 局にも機材を提供し開局をバックアップしました。

ここに、被災地のリアルな声を直接全国に発信することが可能となりました。
　また、メール、facebook、Twitter などのネットツールには、膨大な量の被災地の声、全国からのいたわりと励ましの声が寄せられました。中には、中越地震被災者からの「避難所の子供たちのためにアニメソングを放送しては･･･」というご提案があり、アンパンマンやドラえもんなどのテーマ曲を放送したところ、被災地を始め全国から多くの共感を得ました。また、被災地の子供たちに向けて、それまで東京ローカルで放送していた「読み聞かせ番組」を被災３局にネットしました。
　いたわりの心の輪は当社から人気アーティストにも広がっていきました。ジャズサックスプレイヤーの渡辺貞夫氏は自ら当社に連絡を入れ、スタジオに駆けつけて鎮魂曲を生演奏しました。これを契機に、当社ゆかりの様々なアーティストたちに被災地へのメッセージを呼びかけたところ、山下達郎、松任谷由実、EXILE を始め 160 組以上のアーティストから当社へ言葉のメッセージが届きました。さらに、ドリームズ・カム・トゥルー、桑田佳祐、福山雅治など、レギュラー出演者たちが当社スタジオからの生演奏により励ましのメッセージを発信しました。

　その他、１週間の特別編成の中で、外国人へ向けての情報発信、食料・ガソリンなどの入手をめぐる定時生活支援コーナー、３県に次ぐ被災地であった茨城・千葉のコミュニティーFM と連携した定時企画、原発事故の実態とその後の可能性を探る特集、海外で広がった日本人のマナー賞賛の特集、ヨーロッパのクラシックチャリティーコンサート中継など、考えられる限りの企画を実施しました。
　１週間にわたる報道特別番組、そして、その後４月以降も続行した準特別編成を通じて、TOKYO FM は被災地の心情や立ち上がろうとする勇気、全国からのいたわりの心、人気アーティストたちからのいたわりの心、品薄となっていたラジオを大量に製造して届けてくださったスポンサー企業の思いやりの心。そのような「心」を集約して発信するメディアであり続けることが出来たと考えております。こうした当社の姿勢は様々なメディア、特に生活者の生の言葉が集まるソーシャルメディアで全国から数多くの反響と支持を得ました。報道特番の一部として３月 14 日に放送した「シンクロノシティ～東日本大震災報道特別番組」は本年度の日本民間放送連盟賞ラジオ生ワイド部門において優秀賞を受賞いたしました。
　４月以降の番組においては、被災現地での企画にも注力していきました。釜石サテライトスタジオでの生ワイド番組中継、被災地局での桑田佳祐はじめ人気アーティストによる生放送、コンサート中継を数多く実施。また、被災者の心と身体のケアを支援する「ヒューマン・ケア・プロジェクト」を結成。医師、メディカルトレーナーを帯同して被災地に出向き、天気・気候変化に応じた心と身体のケア、さらには出張生演奏、読み聞かせイベントなどの活動を通して被災された方々へのダイレクトな支援に努めてまいりました。
　その他、「クロノス」（月～金曜 6:00～8:30）、「SCHOOL OF LOCK!」（月～木曜 22:00～23:55／金曜 22:00～22:55）では、被災地の中・高校生や児童に対して図鑑、漫画を届ける活動

を実施。1 万冊を超える図鑑や、２万冊の応援メッセージ入りの漫画が全国から寄せられ、被災地の避難所や小・中学校に届けました。

８月には、節電取り組みに腐心する東京への励ましを企図して、東京タワーを人力蓄電自転車によるエネルギーのみでライトアップするリスナー参加型挑戦プロジェクト「東京タワー 人力ライトアップ大作戦」を実施。リスナー、パーソナリティ、著名人ゲストが一丸となって３日間にわたり蓄電した結果、8 月 23 日夜 20 時８分から 30 分間の点灯を果たし、NHK ニュースをはじめ、各テレビ局、新聞で取り上げられました。９月１日の防災の日には朝から夕方までの各ワイド番組を縦断し、特別番組「REMIND 3・11～震災から学んだこと、そしてこれから～」を放送しました。この内容は、前日８月 31 日の朝日新聞において、同紙の企画として全 15 段・３ページに渡って予告、特集されました。全国紙がひとつの FM 局の防災番組企画のみを３ページにわたって特集したことは、震災以降のラジオメディア再評価を実証するものと言えます。

こうした中、10 月に発表された日経 BP コンサルティングの「企業メッセージ調査」において、当社のコミュニケーション・キャッチフレーズ「80.Love＝エイティ・ポイント・ラブ」が好感を持って認識いただき始めている結果が示されました。「80.Love」は、オリジナルな視点（ポイント）で、愛情・思いやり(ラブ)を発信するという考え方に基づくもので、2008 年より展開しております。

この調査は、企業メッセージへの好感度等を測定する目的で、345 社メッセージについて一般消費者２万人以上を対象に７月に実施されました。「将来性」「躍動感」「信頼性」「ユニークさ」という項目のうち、当社はメディア企業で唯一 20 位以内にランクインし、「躍動感」で 11 位、「ユニークさ」で６位となりました。

「V-Low マルチメディア放送」に関しては、総務省による制度整備が進められ、今年３月末にも開設指針案が公表される見通しでしたが、東日本大震災により延期となっております。このような状況の中、当社は、V-Low マルチメディア放送受信端末の研究プロジェクトを主導的に立ち上げ、山形カシオ㈱との協働により、高機能タブレットタイプと防災無線補完用の 72 時間電池駆動端末の開発に着手しました。また山形カシオ㈱と TDK㈱は、小型化が不可能とされていた V-Low 受信アンテナを独自の材料技術で小型化に成功し、筐体内蔵化を実現しました。平成 25 年度での本放送スタートに向け、受信端末の準備や地域密着情報や安心・安全防災機能など社会的意義を念頭に置いた新しい放送サービスの開発を追求してまいります。

〈企画・制作事業活動〉

企画・制作事業においては、東日本大震災の影響により４月を中心に中止・延期となるイベントが相次ぎましたが、５月には「横山幸雄ショパン・ピアノソロ完全奏破 全 212 曲コンサート」をチャリティーとして開催、ギネス記録更新の感動と共に、被災地へ向けて音楽による励ましのメッセージを届けました。

８月は夏の３大ロックフェスティバルの一つ「SUMMER SONIC 2011」に当社として初めて事業参画し、レッド･ホット･チリ･ペッパーズ、アヴリル・ラヴィーン、少女時代、Ｘ JAPAN 等　国内外のビッグ･アーティストを集め３日間にわたり開催､約 13 万人を動員しました。

番組「SCHOOL OF LOCK!」が毎年夏に実施する 10 代ミュージシャン限定のロックイベント「閃光ライオット」は、これまでにも「ねごと」「Galileo Galilei」などの有望な新進ミュージシャンを輩出してきました。今年も日本全国 1 万組を超える応募者の中から勝ち残ったバンドによるファイナルステージを日比谷野外音楽堂で開催、悪天候にもかかわらず 1 万人余の若者たちが熱狂しました。

震災の影響による会場施設の問題から４月 22 日「アースデー」での開催をやむなく見送った「アース＆ヒューマンコンシャスライブ 2011」は９月６日に振替公演を実施、「ヒューマンコンシャス ～生命（いのち）を愛し、つながる心」のメッセージと音楽を、5 ヵ国語、37 の国と地域、 100 局近くの放送局に向けて発信しました。最後は出演者（藤井フミヤ、今井美樹、ゴスペラーズ、植村花菜）全員による「上を向いて歩こう」の大合唱が日本および世界のリスナーに向けて届けられました。

また、当社及びＪＦＮ加盟局が中心に主催し、全国６箇所、計 11 公演で約 40 万枚のチケットが即日完売となったドリームズ･カム･トゥルー「WONDERLAND 2011」各公演では、当社がヒューマンコンシャスの一環として活動している「Hellosmile Project（子宮頸がん啓発キャンペーン)」のパンフレットを配布すると共に、当社が企画提案した㈱サンリオ「ハローキティ」とのコラボ商品「ドリキティ」や番組連動のオリジナルグッズを製作・販売し、来場者の人気を博しました。

〈インフォメーションプロバイダー事業活動〉

当社連結子会社ジグノシステムジャパン㈱では、スマートフォン向けアプリの新規開発や既存の携帯電話向け公式サイトのスマートフォン対応、ゲームサイトのソーシャルゲーム展開等に注力しました。その結果、iPhone アプリ・Android アプリとして、選手の背番号による時刻表示など野球ファンが楽しめる機能を満載した「東京ヤクルトスワローズ時計」「千葉ロッテマリーンズ時計」等のオリジナル企画が話題を集めた他、人気乙女系ゲームサイト「いざ、出陣！恋戦」をプレーステーション・ポータブル版に移植する等、収益源の多様化につながる新たな取組みを開始しております。

一方、ソリューション事業においては、自社ストレージサービス「光みんなのポケット」と連携したネット上のフォトコンテスト企画など、新たなサービス創出に注力いたしました。

以上

前年同期比較中間損益計算書（連結）

平成23年４月１日～平成23年９月30日

（単位:千円）

勘定科目	平成24年３月期中間期 (H23.4.1～H23.9.30)	平成23年３月期中間期 (H22.4.1～H22.9.30)	前年同期比
売上高	8,799,972	8,797,408	100.0%
売上原価	5,674,424	5,662,774	100.2%
売上総利益	3,125,548	3,134,633	99.7%
販売費及び一般管理費	2,646,114	2,902,411	91.2%
（内 のれん償却額）	64,161	46,772	137.2%
営業利益	479,433	232,222	206.5%
（売上高営業利益率）	5.4%	2.6%	
営業外収益	53,223	80,056	66.5%
営業外費用	90,128	88,990	101.3%
経常利益	442,528	223,288	198.2%
（売上高経常利益率）	5.0%	2.5%	
特別利益	5,428	31,956	17.0%
特別損失	26,155	30,365	86.1%
税金等調整前中間純利益	421,802	224,879	187.6%
法人税、住民税及び事業税	△ 180,993	8,985	―
法人税等調整額	435,261	△ 56,421	―
少数株主損益調整前中間純利益	167,533	272,315	61.5%
少数株主利益	△ 31,746	3,578	―
中間純利益	199,280	268,736	74.2%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

平成23年４月１日～平成23年９月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成24年３月期中間期 (H23.4.1～H23.9.30)	平成23年３月期中間期 (H22.4.1～H22.9.30)	前年同期比
売上高	6,678,260	6,203,841	107.6%
売上原価	4,387,162	4,097,345	107.1%
売上総利益	2,291,097	2,106,496	108.8%
販売費及び一般管理費	1,816,421	1,958,995	92.7%
営業利益	474,676	147,501	321.8%
(売上高営業利益率)	7.1%	2.4%	
営業外収益	108,014	86,304	125.2%
営業外費用	59,293	68,024	87.2%
経常利益	523,397	165,781	315.7%
(売上高経常利益率)	7.8%	2.7%	
特別利益	－	31,193	－
特別損失	9,159	22,524	40.7%
税引前中間純利益	514,238	174,451	294.8%
法人税、住民税及び事業税	2,570	2,570	100.0%
法人税等調整額	222,223	△ 59,436	－
中間純利益	289,444	231,318	125.1%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

平成23年４月１日～平成23年９月30日

(単位:千円)

	平成24年３月期中間期 (H23.4.1～H23.9.30)	平成23年３月期中間期 (H22.4.1～H22.9.30)	前年同期比
売上高	6,678,260	6,203,841	107.6%
放送事業収入	5,635,816	5,572,986	101.1%
放送収入	3,874,100	3,856,178	100.5%
タイム放送料	2,861,588	2,804,866	102.0%
スポット放送料	1,012,512	1,051,311	96.3%
制作収入	961,780	931,117	103.3%
その他	799,935	785,691	101.8%
企画事業収入	708,099	302,781	233.9%
賃貸事業収入	280,335	273,813	102.4%
その他事業収入	54,008	54,259	99.5%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

47 期(上期)広告会社取り扱い順位

＜総合順位＞

47 期	46 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	5	東急エージェンシーン
5	4	ビデオプロモーション
6	26	クオラス
7	7	三晃社
8	8	読売エージェンシー
9	10	オフィスフラッグス
10	50	マッキャンエリクソン

＜タイム＞

47 期	46 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	5	東急エージェンシー
5	4	ビデオプロモーション
6	6	読売エージェンシー
7	27	クオラス
8	9	オフィスフラッグス
9	8	オリコム
10	11	第一通信社

＜スポット＞

47 期	46 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	6	アサツー ディ・ケイ
4	4	三晃社
5	21	クオラス
6	5	放送文化事業
7	28	マッキャンエリクソン
8	8	毎日廣告社
9	9	東急エージェンシー
10	－	グループエム・ジャパン

平成24年３月期　中間決算短信

平成23年11月30日

会社名　　株式会社　エフエム東京
ＵＲＬ http://www.tfm.co.jp
代　　表　　者（役職名）　代表取締役社長　　（氏名）　冨木田　道臣
問 合 せ 先 責 任 者（役職名）　執行役員総務局長　　（氏名）　村上　正光　　ＴＥＬ(03)3221-0080
配当支払開始予定日　　平成23年12月12日

（百万円未満切捨て）

１．24年３月期中間期の連結業績（平成23年４月１日～平成23年９月30日）

（１）連結経営成績　　（%表示は対前年中間期増減率）

	売　上　高		営 業 利 益		経 常 利 益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期中間期	8,799	0.0	479	106.5	442	98.2	199	△ 25.8
23年3月期中間期	8,797	△ 16.0	232	△ 48.8	223	△ 47.4	268	△ 36.7

	１株当たり中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
24年3月期中間期	222	42	－	－
23年3月期中間期	299	94	－	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
24年3月期中間期	34,954	24,486	69.4	27,059	17
23年３月期	38,230	24,256	62.7	26,762	99

（参考）自己資本　24年３月期中間期　24,243百万円　　23年３月期　23,978百万円

2．配当の状況

	年間配当金					
	中間期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
23年３月期	30	00	30	00	60	00
24年３月期	30	00				
24年３月期（予想）			30	00	60	00

3．その他

(1) 当中間連結会計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）　無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　無

② ①以外の会計方針の変更　無

③ 会計上の見積りの変更　無

④ 修正再表示　無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年３月期中間期	900,000株	23年３月期	900,000株
② 期末自己株式数	24年３月期中間期	4,057株	23年３月期	4,057株
③ 期中平均株式数（中間期）	24年３月期中間期	895,943株	23年３月期中間期	895,955株

（参考）個別業績の概要

（百万円未満切捨て）

１．24年３月期中間期の個別業績（平成23年４月１日～平成23年９月30日）

（１）個別経営成績　（%表示は対前年中間期増減率）

	売　上　高		営 業 利 益		経 常 利 益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期中間期	6,678	7.6	474	221.8	523	215.7	289	25.1
23年3月期中間期	6,203	△ 8.3	147	△ 60.3	165	△ 51.0	231	△ 28.9

	１株当たり中間純利益	
	円	銭
24年3月期中間期	321	60
23年3月期中間期	257	02

（２）個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
24年3月期中間期	34,010	25,253	74.3	28,059	21
23年３月期	36,711	24,913	67.9	27,681	37